

病害と紛らわしいダニ被害

ハウレンソウケナゴコナダニによる被害が持ち込まれましたので、一見、病害のように見えるダニ類の被害について、過去の画像データも含め、簡単にまとめておきます。

1. ハウレンソウケナゴコナダニによるコマツナの被害

葉に小さな穴を生じ（左図）、新葉が加害されると正常に展開せず奇形になり（中左図）、一見すると病害のように見えます。虫体は楕円形で後部に長い毛が生えています（中右図）。ペンチのような太い鉗角が特徴的です（右図）。20℃以下の低温時に土壤中で増殖し、植物体に移行します。比較的低温時の発生ですから、通常の防除時期では間に合わない場合があります。

薬剤は新芽にも十分かかるように散布してください。被害株は増殖源になるので直ちに処分してください。



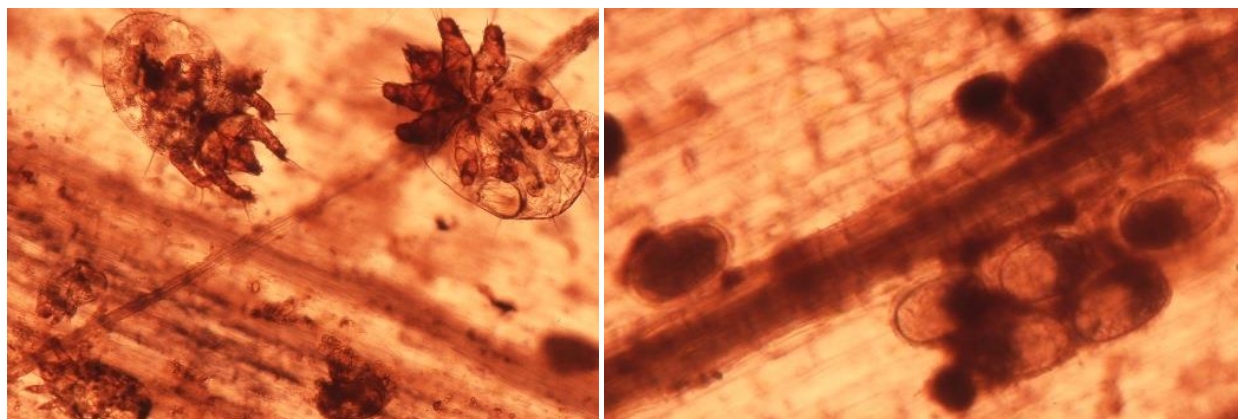
2. ネダニによる被害

ユリ、チューリップ、スイセン、フリージアなど多くの球根類に被害が見られます。

被害組織には、卵（左図・下方中）、幼虫（左図・下方左）、成虫（左図・上方右）、が混在し、卵塊となっていることもあります（右図）。

生育期では細菌、糸状菌による立枯症状と、肉眼だけでは識別が難しい場合があります、混発もあるので、顕微鏡観察による原因の特定が重要です。

球根貯蔵中にも被害が拡大し、球根底部から内部にかけて黒粉状になります。貯蔵前に球根消毒を行ってください。



3. トマトサビダニによる被害

吸汁によりトマト茎葉の毛茸が褐変し、やがて下位葉から枯れ上がります（左図）。株ごとに伝搬していくので、立枯性病害のようにも見えます。寄生密度は極めて高く、毛茸が褐変しているところに多数の成虫（中図）・幼虫（右図）を容易に確認できます。

被害株は増殖源になるので、直ちに処分してください。ハダニ類、コナジラミ類の防除を行っていれば併殺されます。



4. ニセナシサビダニによるナシのモザイク症



新葉の、細かい葉脈に囲まれた部分が退緑して、小さな角斑を密に生じ、モザイク症状のように見えます（左図）。

寄生密度は高く、被害葉にセロテープを押し当てれば、虫体が容易に採取できます（右図）。これだけ近接して多数の個体が寄生しています。

サビ症状は気温が上がる6月以降に発生しますが、モ

ザイク症状はその前に発生するので、早期の防除が必要になります。心梢先端近くに多く生息しますので、薬剤は隅々までよくかかるように散布してください。



5. キクモンサビダニによるキク紋々病

吸汁によって、葉に退緑斑を生じ、ウイルスによるモザイク症状に似ています（左図）。寄生密度は低く、重症葉でも1葉あたり数頭の寄生で、しかも葉内に潜り込んでいます。確認の際は、100ワット白熱電球で20～30分加熱して、暑がって葉内から出てくるところを実態顕微鏡で観察しながら待ちます。虫体（右図）は実態顕微鏡下では白いウジのように見えます。

被害株からの採穂は避けてください。